日本赤十字社長崎原爆病院治験審査委員会 会議の記録(概要)

開催日時	2016年7月28日17:00~17:35	開催場所	日本赤十字社長崎原爆病院 別館 4 階 カンファレンス室	
出席委員名	上田 康雄、福田 正明、町田 毅、道辻 美和子、立石 一弘、中村 二三代、古川 : 上島 泰二、松崎 さつき			和代、
議題		主な議論の概要		審議結果
<継続審査> (治験課題名) (開発の相) (対象疾患名) (治験依頼者名)	大塚製薬の依頼による OCV-501 の第 II 相試験 第II 相 高齢急性骨髄性白血病 大塚製薬株式会社	① 治験実施状以上1点より、妥当性につい	、引き続き治験を実施することの	承認
<継続審査> (治験課題名) (開発の相) (対象疾患名) (治験依頼者名)	ポリープ状脈絡膜血管症患者を対象に、アフリベルセプト硝子体内投与単独療法と、アフリベルセプト+光線力学療法(適応を有する場合にのみ実施)の有効性、安全性及び忍容性を比較検討する二重遮蔽無作為化第IIIb/IV相試験第IIIb/IV相ポリープ状脈絡膜血管症バイエル薬品株式会社		された安全性情報に関する報告 り、引き続き治験を実施することの て、審議した。	承認
<継続審査> (治験課題名) (開発の相) (対象疾患名) (治験依頼者名)	セルジーン株式会社の依頼による再発 又は難治性の低悪性度リンパ腫患者を 対象とした CC-5013 (レナリドミド) の第3相試験 第Ⅲ相 再発又は難治性の低悪性度リンパ腫 セルジーン株式会社	② 治験実施状	り、引き続き治験を実施することの	承認
<継続審査> (治験課題名) (開発の相) (対象疾患名) (治験依頼者名)	日本イーライリリー株式会社の依頼に よる関節リウマチを対象とした LY3009104の第Ⅲ相試験 (JADY) 第Ⅲ相 関節リウマチ 日本イーライリリー株式会社		出告された安全性情報に関する報告 り、引き続き治験を実施することの て、審議した。	承認

<継続審査> (治験課題名) (開発の相) (対象疾患名) (治験依頼者名)	リウマチ患者を対象とした ASP015K 継 続投与試験 第Ⅲ相 関節リウマチ アステラス製薬株式会社	① 国内で報告された安全性情報に関する報告 以上1点により、引き続き治験を実施することの 妥当性について、審議した。	承認
<継続審査> (治験課題名) (開発の相) (対象疾患名) (治験依頼者名)	リウマチ患者を対象とした ASP015K 第三相試験① 第Ⅲ相 関節リウマチ アステラス製薬株式会社	① 国内で報告された安全性情報に関する報告 以上1点により、引き続き治験を実施することの 妥当性について、審議した。	承認
<継続審査> (治験課題名) (開発の相) (対象疾患名) (治験依頼者名)	リウマチ患者を対象とした ASP015K 第三相試験② 第Ⅲ相 関節リウマチ アステラス製薬株式会社	① 国内で報告された安全性情報に関する報告 以上1点により、引き続き治験を実施することの 妥当性について、審議した。	承認
<継続審査> (治験課題名) (開発の相) (対象疾患名) (治験依頼者名)	中等度から重度の関節リウマチ患者を対象として Nami lumab の 3 用量(20 mg、80 mg、150 mg) とメトトレキサート (MTX) を 24 週間併用したときの有効性及び安全性を評価する、第 2 相、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、用量設定試験第 II 相 ー 武田薬品工業株式会社	① 国内外で報告された安全性情報に関する報告 以上1点により、引き続き治験を実施することの 妥当性について、審議した。	承認
<継続審査> (治験課題名) (開発の相) (対象疾患名) (治験依頼者名)	大塚製薬株式会社の依頼による急性骨髄性白血病患者を対象とした SGI-110の第Ⅲ相試験第Ⅲ相 成人未治療 AML 患者 大塚製薬株式会社	① 国外で報告された安全性情報に関する報告 以上1点により、引き続き治験を実施することの 妥当性について、審議した。	承認

Pegol の (開発の相) 第Ⅲ相 (対象疾患名) 未治療の	者を対象とした Abicipar D第Ⅲ相試験 D滲出性 AMD 患者 ン・ジャパン株式会社	① 治験実施計画書、治験薬概要書、説明文書、同意文書、治験の費用の負担について説明した文書、治験参加カードの変更以上1点により、引き続き治験を実施することの妥当性について、審議した。	承認
転移性去 とした OD (開発の相) 第Ⅲ相	薬品株式会社の依頼による非 勢抵抗性前立腺癌患者を対象 M-201 の第Ⅲ相試験 去勢抵抗性前立腺癌 薬品株式会社	① 国内で報告された安全性情報に関する報告 ② 治験薬概要書、説明文書、同意文書の変更 以上2点により、引き続き治験を実施することの 妥当性について、審議した。	承認